「難波往古図」大阪市立図書館デジタルアーカイブより

日本全国 能楽キャラバン！

能で巡る大阪

会場 山本能楽堂

玉井　令和4年 9月4日(日) 14時開演

芦刈　10月30日(日) 14時開演

梅　12月10日(土) 14時開演

鉄輪　令和5年 1月9日(月祝) 14時開演

雷電　1月29日(日) 14時開演

95th 山本能楽堂

能で巡る大阪

ごあいさつ

能のルーツは関西にあると言われています。8世紀に中国大陸から渡ってきた散楽などをもとに「猿楽」が生まれ、約650年前に、観阿弥・世阿弥によって大成されてから、能は、現在まで途切れることなく演じられ続けてきました。関西を舞台にした作品が数多く作られ、難波津からの古い歴史を持つ「古都」である大阪を題材とした作品も、たくさん存在し、今なお、人気のある演目として演じられ続けています。

しかし、高層ビルが立ち並ぶ近代化された大都会の現在の大阪の町の中では、歴史の面影を見つけることは少し難しくなっているような気がします。1945年の大阪大空襲で、あたり一面が焼け野原になってしまい、歴史的建造物などが数多く焼失してしまったのも原因の一つなのかもしれません。

そこで、今回の「能で巡る大阪」では、大阪を代表する神社の関係者の方々から特別にお話を伺い、所縁のある能の演目を同時にご覧頂くことで、神社の歴史と能の演目の双方からの相乗効果によって、これまであまり知られていなかった大阪の魅力をお楽しみ頂ければと思います。

日本人は古より自然の中のあらゆるものに神様を見出し、数多くの神社が生まれたと言われています。能も、神様に捧げるための芸能として始まりました。神社には能舞台が多く残され、現在も薪能が開催されています。また、今回は、5種類の能の演目を取り上げさせて頂きましたが、ほかにも大阪にまつわる能の演目やその舞台となった神社は数多く存在します。

新型コロナウィルスによる未曾有の災禍となり、様々な価値観が変わり、社会が急激に変化し、不安な状況が続いています。この非常事態を乗り越え、新しいより良い未来社会を目指すためにも、古より地域を守り続けて下さっている神社をお参りし、ご覧いただいた能の演目をその場所でも、想像して楽しんで頂ければと思います。そして、日本人が心の依代として大切にしてきたものを今一度、感じて頂くことで、次代へと日本の伝統文化が継承されていくことを願ってやみません。

大西 礼久　山本 章弘　生一 知哉　上野 朝義　梅若 猶義

玉井 ―― 住吉大社

令和4年 9月4日（日）　14時開演

対談：
小出 英詞（住吉大社）×
竹村 伍郎（NPO法人まち・すまいづくり理事長）

能「玉井」

前シテ（豊玉姫） 後シテ（海神の官主）	山本　章弘	笛	貞光　智宣
		小鼓	古田　知英
ツレ（玉依姫）	山本　麗晃	大鼓	守家　由訓
天女	赤井きよ子	太鼓	井上　敬介
	前田　和子		
ワキ（彦火々出見尊）	福王茂十郎	後見	上野　朝義
ワキツレ	喜多　雅人		生一　知哉
	広谷　和夫		上野　雄介
アイ（貝の精）	茂山千三郎		
	善竹　隆司	地謡	杉浦　豊彦
	善竹　隆平		梅若　猶義
	山本　善之		吉井　基晴
			大西　礼久
			井戸　良祐

玉井 あらすじ

彦火々出見尊（ひこほほでみのみこと／前ワキ）は、兄である火闌降尊（ほのすそりのみこと）に借りた釣り針を使って海辺で釣りをしていたところ、その釣り針を魚に取られてしまう。兄に釣り針を返せ、と責められた彦火々出見尊は、海中の都に探しに行く。都に着いた尊が玉井の傍にある桂の木陰で佇んでいると、豊玉姫（前シテ）と玉依姫（前ツレ）が水を汲みに現れる。二人は尊に素性を尋ねると、その高貴な姿に心を惹かれ、宮中へと案内する。宮中では姫たちの父、海神からもてなしを受けて、いつの間にか三年の月日が過ぎていった。尊はそろそろ国へ帰ろうと、海路の案内を乞うと、海神が供をして陸地に送り届けようと言い、用意の間しばし待つように言って去る。用意が整うと、天女の姿で現れた二人の姫（天女）は潮の満ち引きを自在に操る二つの玉を、海神（後シテ）は探し物の釣り針を捧げて舞楽を奏すると、大きな鰐に尊を乗せて陸地へと送り届けたのであった。

芦刈 ―― 田蓑神社

令和4年 10月30日（日）　14時開演

対談：平岡 努（田蓑神社） × 山本 章弘

能「芦刈」

シテ（日下左衛門）	梅若　猶義	笛	野口　亮
ツレ（左衛門の妻）	立花香寿子	小鼓	荒木　建作
ワキ（従者）	喜多　雅人	大鼓	森山　泰幸
ワキツレ（供人）	村瀬　慧		
アイ（難波の里人）	茂山千三郎	後見	山本　章弘
			生一　知哉
			松浦信一郎
		地謡	上野　朝義
			井戸　和男
			大西　礼久
			池内光之助
			梅若　堯之

芦刈 あらすじ

都に住む日下左衛門の妻（ツレ）は貧しさのあまりに夫と別れたが、その後貴人の乳母となり良い暮らしができるようになったので、夫の行方を尋ねて従者（ワキ・ワキツレ）を伴い難波の浦に下っていく。夫は落ちぶれて、居場所もわからなくなっていたが、ちょうどそこに芦売りの男（シテ）が現れる。芦売りは難波の御津の浜や、春の美しい景色の様子を面白く舞いながら語って見せ、人々に芦を買うように勧めている。その様子を見た妻は、芦売りが夫であると気付き呼び寄せるが、芦売りは落ちぶれた自分の姿を恥じて、小屋に隠れてしまう。やがて二人は対面し再会を喜ぶと、歌で互いの心情を交わし合う。芦売りは和歌の徳を讃え、喜びの舞を舞うと夫婦が連れ立って都へと帰って行くのであった。

梅 ―― 浪速高津宮（高津神社）

令和4年 12月10日（土）　14時開演

対談：小谷 真功（高津神社） × 山本 章弘

能「梅」

前シテ（里女） 後シテ（梅の精）	上野　朝義	笛	赤井　啓三
		小鼓	飯田　清一
ワキ（藤原何某）	広谷　和夫	大鼓	辻　芳昭
ワキツレ（従者たち）	喜多　雅人		
	矢野　昌平		
アイ（難波の里人）	山下　守之	後見	梅若　猶義
			生一　知哉
			大西　礼久
		地謡	山本　章弘
			波多野　晋
			上野　雄三
			吉井　基晴
			上野　朝彦

梅 あらすじ

早春の二月、京都五条に住む藤原何某（ワキ）はまだ難波津を見たことがないので、一目見に行こうと都から下っていく。難波津に着いた何某は、早春の海辺の気色を眺めながら、大友家持が桜の季節の難波津を詠んだ歌を思い出す。歌を吟じて、今はまだ梅の盛りだと独り言を言うと、里女（前シテ）が現れる。女は、家持がこの歌を詠んだ時の事情を語り、もともとは桜ではなく梅を詠んだものだったのだ、と言う。さらに和歌についていろいろ語って聞かせると、今夜月の出る事にまた参ります、と告げて梅の木陰に消えていく。その夜、藤原何某が梅の木陰で仮寝していると、月が出るのと共に梅の精（後シテ）が現れる。梅の精は、古来より梅が尊ばれていること等を語ると、天下泰平と幾久しく栄える御代を祝って舞を舞うのであった。

鉄輪 ―― 安倍晴明神社

令和5年 1月9日（月祝） 14時開演

対談：高島 幸次（歴史学者） × 山本 章弘

能「鉄輪」

前シテ（都の女） 後シテ（鬼女）	大西　礼久	笛	野口　亮
ワキ（安倍晴明）	福王茂十郎	小鼓	上田　敦史
ワキツレ（下京の男）	喜多　雅人	大鼓	辻　雅之
アイ（貴船の宮の社人）	鈴木　実	太鼓	上田　悟
		後見	大西　智久
			山本　博通
		地謡	上野　朝義
			山本　章弘
			梅若　猶義
			生一　知哉
			今村　哲朗

鉄輪 あらすじ

都に住む女（前シテ）は自分を捨てて、新しい妻を迎えた夫の不実を恨んで、その恨みを晴らすために貴船神社へ毎日お参りをし願かけをしている。今日もお参りに行くと、社人（アイ）から神のお告げを伝えられる。それは赤い着物を着て顔に朱を塗り、鉄輪（五徳）を頭に載せて、その三つの脚にロウソクを付けて火を灯せば、生きながらの鬼になって、恨みを果たせるだろうというものであった。女は社人に、そのお告げは人違いだと言いますが、みるみる間に顔色が変わって、恨みを晴らそうと走り去っていく。

一方、夫（ワキツレ）は夢見が悪いので陰陽師の安倍晴明（ワキ）を訪れて祈祷を頼む。そこで、晴明が祭壇を調えて、夫と新妻の人形を作って祈祷をし始めると、悪鬼となった女の生霊（後シテ）が現れる。生霊は人形に向かって恨みを述べ、新妻の髪を手に絡め打ち叩き、さらに夫の命を取ろうと責め寄るが、晴明が呼び出した守護の式神に追われ、神通力を失って、呪いの言葉を残して立ち去っていくのであった。

雷電 ―― 大阪天満宮

令和5年 1月29日（日） 14時開演

対談：柳野 等（大阪天満宮） × 山本 章弘

能「雷電」

前シテ（菅丞相／菅原道真の霊） 後シテ（雷神）	生一　知哉	笛	斉藤　敦
ワキ（法性坊）	原　大	小鼓	久田陽春子
アイ（能力）	善竹　隆平	大鼓	守家　由訓
		太鼓	中田　一葉
		後見	山本　章弘
			梅若　基徳
			塩谷　恵
		地謡	上野　朝義
			梅若　猶義
			大西　礼久
			山中　雄志
			伊原　昇

雷電 あらすじ

比叡山延暦寺の座主、法性坊（前ワキ）が天下泰平を祈願する仁王会を執行していると、夜も更けたころ、寺の門を敲く音が聞こえる。不審に思いながら覗いてみると、法性坊が幼いころ親のように養育してくれた菅原道真の霊（前シテ）が立っていた。生前の恩に感謝を述べ、打ち解けて語り合う二人。すると道真は「私は雷となって、敵対していた殿上人たちを蹴殺そうと思う」と明かし、その時には法性坊が祈祷のため、きっと宮中に呼び出されるが、決して参内しないように、と忠告する。法性坊が「三度目のお召しには参内しなければいけない」と答えると、道真は怒り、本尊に供えてあった柘榴の実を噛み砕いて扉に吹きかけると、たちまちに炎となって燃え上がる。法性坊が洒水の印を結んでこれを消し止めると、道真の霊は煙に紛れて消えてしまう。やがて御所を黒雲が覆い雷が落ちはじめると、法性坊（後ワキ）は宮中に召される。正殿の紫宸殿に参内すると、道真の怨霊は雷神（後シテ）となって現れ、祈り伏せようとする法性坊を避けながら、御所のあちこちで稲妻を光らせ、雷鳴を轟かせる。しかし、千手陀羅尼の経文の功力によって、その力は衰え、天皇から「天満大自在天神」の神号を賜ったことに感謝を述べると、黒雲に乗って空高く昇っていくのであった。

能で巡る大阪MAP

田蓑神社　大阪市西淀川区佃 1-18-14

貞観十一年(869)に創建。住吉三神と神功皇后の「住吉四神」が祀られている。天正年間、徳川家康公この地に立ちよられた折、神崎川の渡船を勤めた縁により、後に幕府より隅田川下流の干潟を賜り、故郷の名をとり佃島と定め、田蓑神社の御分神霊(東京都中央区佃の住吉神社)を奉戴。また寛永八年(1631年)田蓑神社内に、徳川家康公が祀られることになった。

大阪天満宮　大阪市北区天神橋 2-1-8

奈良時代 白雉元年(650年)孝徳天皇が難波長柄豊崎宮建立の際、都の西北を守る神として大将軍社をこの地にお祀りされた。平安時代延喜元年(901年)当宮の御祭神である菅原道真公は太宰府へ向かう途中この大将軍社にて旅の無事を御祈願。その後太宰府において、道真公は、死去、その50年あまり後の天暦三年(949年)この大将軍社の前に一夜にして七本の松が生え、夜毎にその梢を光らせたと言われている。これを聞いた村上天皇様は、勅命によって、社を建立し、道真公の御霊を厚くお祀りされた。

浪速高津宮(高津神社)　大阪市中央区高津 1-1-29

浪速の地を皇都(高津宮)と定められ大阪隆昌の基を築かれた仁徳天皇を王神と仰ぐ神社。貞観8年(866)、清和天皇の勅令によって難波高津宮の遺跡が探され、あったと定められた地に仁徳天皇を祀る社が建立されたのが始まりとされている。700年後、正親町天皇の天正11年(1583)、豊臣秀吉が大坂城を築城した際にご神体を現在地に移すが、第2次世界大戦時の大阪大空襲で神社は全焼。現在の社殿は、戦後に再建されたものである。

大阪湾

住吉大社　大阪市住吉区住吉 2 丁目 9-89

神功皇后摂政11年(211)鎮座。全国の2300社を超える住吉神社の総本社。住吉大社の祭神は、伊弉諾尊が禊祓を行われた際に海中より出現された底筒男命(そこつつのおのみこと)・中筒男命(なかつつのおのみこと)・表筒男命(うわつつのおのみこと)の三神、そして当社鎮斎の神功皇后(じんぐうこうごう)を祭神としている。仁徳天皇の住吉津の開港以来、遣隋使・遣唐使に代表される航海の守護神として崇敬をあつめ、また、王朝時代には和歌・文学の神として、あるいは現実に姿を現される神としての信仰もあり、禊祓・産業・貿易・外交の祖神と仰がれている。

安倍晴明神社　大阪市阿倍野区阿倍野元町 5-16

平安時代の陰陽師、安倍晴明をご祭神とする神社。社伝によると、晴明没後2年の寛弘4年(1007)の創設とされている。境内には、江戸の文政年間に建設された晴明誕生の地を示す碑や、産湯の跡などがあり隆盛を極めたが、幕末に衰退へ。大正10年(1921)、50m南にある阿倍王子神社の末社として復興、大正14年(1925)には現在の社殿が建てられたといわれている。

入場券

一般 4,000円

※開場は、開演の30分前です。
※未就学児のご入場をお断りしております。

チケット取扱い

山本能楽堂
ホームページ　http://noh-theater.com
TEL 06-6943-9454（平日10時～17時、土日祝休み）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、客席数を減らしています。
ご予約されてからのご来場をお願いいたします。
満員の際は、ご入場をお断りすることがあります。

お問い合わせ

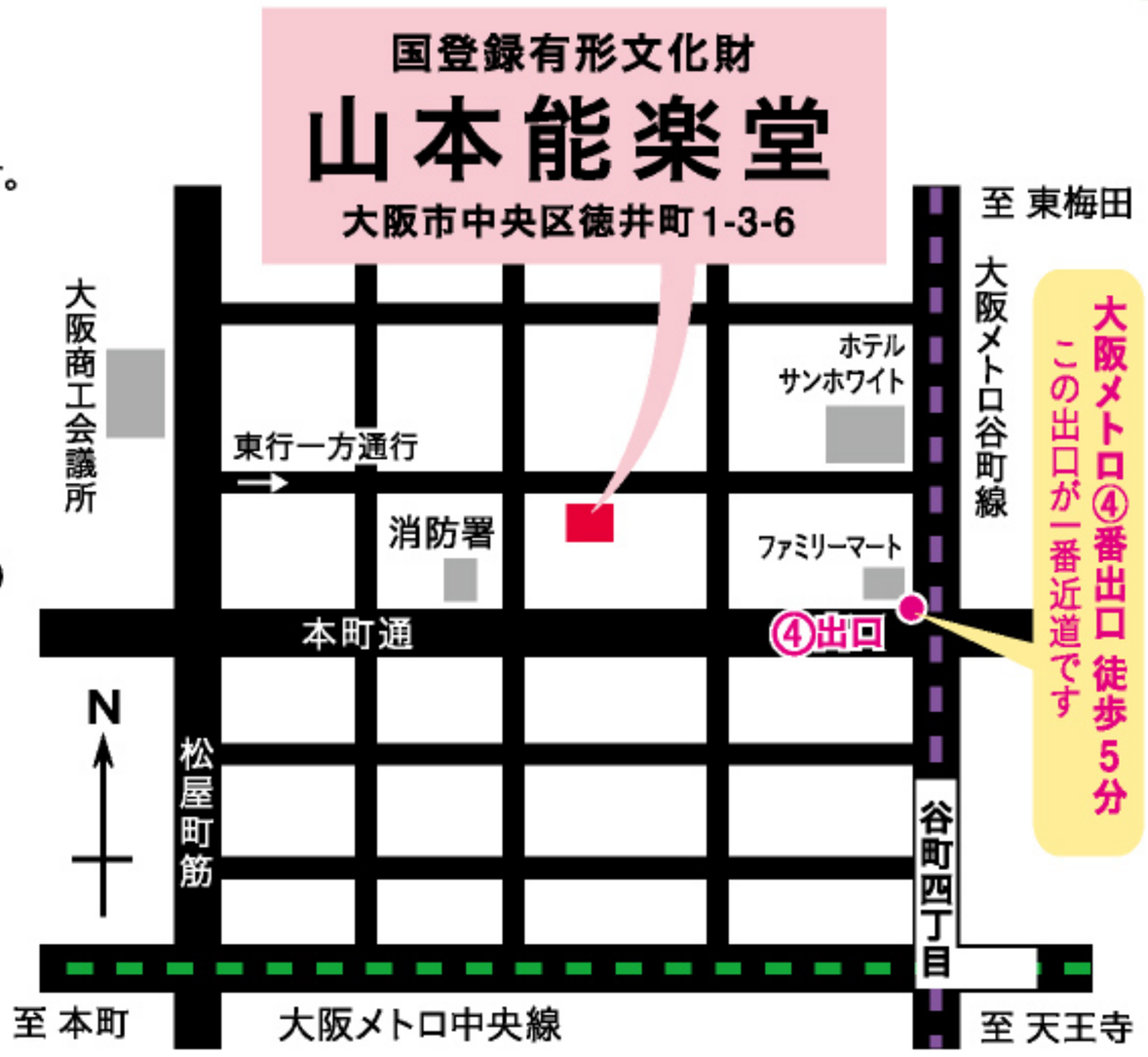
公益財団法人 山本能楽堂
TEL　06-6943-9454
FAX　06-6942-5744
E-mail　ticket@noh-theater.com

新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

山本能楽堂では、下記対策を行っております。

- 咳、体調不良や検温(非接触式体温計)で37.5℃以上の発熱があった場合は、入場をお断りさせていただきます。
- 咳エチケット、マスク着用、手洗いや手指消毒をお願いします。
- 会場内は、空気除菌機、消毒液を設置しています。
- ご来場された際、大阪府コロナ追跡システムの登録をお願いします。

詳しくは、山本能楽堂HPをご覧ください。



大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目駅」4番出口より谷町筋に沿って北へ。
1筋目（ホテルサンホワイト）手前を左折。1筋越えてすぐ左手。徒歩約5分。

- 携帯電話など、音の出る機器の電源は予めお切りください。
- 無許可の写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。
- 都合により、予告なく演目・出演者等に変更のある場合がございます。

主催：公益社団法人　能楽協会
　　公益財団法人　山本能楽堂

文化庁 統括団体によるアートキャラバン事業
（コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業）

日本全国能楽きゃらばん

山本能楽堂 presents 無料アプリ

SUPER UTAI スーパーうたい

ユネスコ世界無形文化遺産である能をゲーム感覚で気軽に遊ぼう！
能の謡（うたい）に触れたことのない方、謡ってみたい方は、ぜひ挑戦してください。

WeNoh!

ようこそ！能の世界へ。このアプリで、能の演目や能面・装束など、
誰でも気軽に、能楽を楽しむことができます。
このアプリを使って、ぜひ能楽堂へお越しください！

OHAYASHI 囃子 sensei

誰でも能の音楽を楽しみながら、ゲーム感覚で能の楽器（お囃子）を演奏することができます。
楽器を選んで、今すぐ演奏してみましょう！

上方丸の伝統文化塾

上方で生まれた伝統芸能について楽しく学ぶアプリです。
世阿弥・近松・阿国の亡霊に伝統芸能のことを色々教えてもらい、
上方丸の夢を実現させましょう！